



Yellowfinのバックアップ

目次

- Yellowfinのバックアップ
 - Yellowfinのバックアップどうすれば？

- xmlファイルでのエクスポート/インポート
 - エクスポート/インポート
 - メリット
 - デメリット

- リポジトリデータベースの完全バックアップ
 - 完全バックアップ
 - メリット
 - デメリット

- どのように使い分ける？
 - 通常運用時には
 - 弊社へお問合せの際には

Yellowfinのバックアップどうすれば？

Yellowfinはアプリケーション自体に一切のデータを保持していませんので、バックアップの対象はリポジトリデータベースのデータになります。

その取得方法は2つあります。

- xmlファイルでのエクスポート/インポート
- リポジトリデータベースの完全バックアップ

もちろんそれぞれにメリットとデメリットがありますので、しっかり理解して使い分けができるようにしましょう。



xmlファイルでのエクスポート/インポート

成 閲覧 管理 ディスカッション ログアウト

Administrator System

管理

- 管理
- 管理コンソール
- システム構成
- コンテンツ設定
- ↑ エクスポート
- ↓ インポート

ユニークログイン 過去 30 日以内	ダッシュボード 過去30日のアクセス	レポート 過去 30 日以内の表示
3 / 9999	28	Accessed 2 / 5
表示数 6 / 55		

システム構成

- システム構成
- コンテンツ設定
- イメージとマップ
- 電子メールテンプレート

管理

- セッション管理
- スケジュール管理
- ダッシュボード管理
- ライセンス管理
- システム情報
- ↑ エクスポート
- ↓ インポート

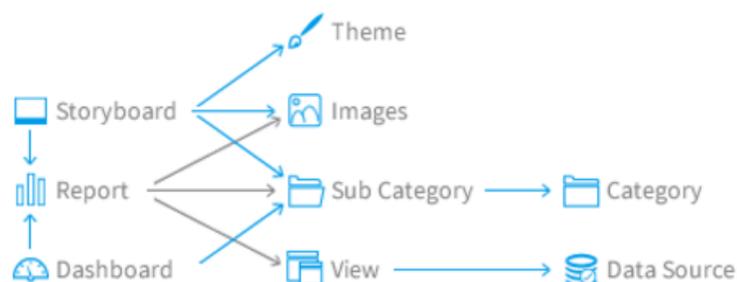
管理画面より、レポートやビューといったコンテンツをxmlファイル形式でエクスポートができます。

エクスポートしたxmlファイルはYellowfinの画面上からインポートすることが可能です。

ヘルプが必要ですか？

ヘルプ期限まであと有効期限 102...

コンテンツの従属関係



コンテンツをエクスポートするときは、エクスポートするアイテムを選択するだけでなく、メインコンテンツが機能するうえで従属する可能性があるその他のアイテムもすべて選択することが重要です。

Yellowfinのコンテンツ従属構造は左の図のとおりです。

たとえばレポートをエクスポートする場合は、次のいずれかを確認する必要があります。

1. 使用するすべてのイメージ、格納されるカテゴリとサブカテゴリ、および基になるビューおよびソース接続を含めてエクスポートするか、
2. 上記のアイテムすべてが、インポート先のインスタンスですでに使用可能であることを確認します。

エクスポートの際、末端（上記図だと左側）のコンテンツからエクスポートすると、それに関連する他のコンテンツを同時にエクスポートするか、選択することができます。関連性を維持したままエクスポートすることができるため、例えばダッシュボードフィルターのリンク設定等を生かしたまま、エクスポートすることができます。

詳細はYellowfin Wikiをご確認ください。

<http://wiki.yellowfinbi.jp/pages/viewpage.action?pageId=4522066>

従属関係

エクスポートに選択したアイテムは下記のアイテムに依存しています。エクスポートに追加するアイテムを選択してください。エクスポートしないアイテムはターゲットシステムに存在している必要があります。

キャンセル 戻る エクスポート

エクスポートアイテム選択

キャンセル 次へ

エクスポートするアイテム:

ダッシュボードタブ

タブの選択:

- Analysis
- Drill
- GIS Maps
- Monitor
- Series Selection

すべて追加 追加

アイテム

ダッシュボードタブ Analysis

クリア 削除

アイテム

<input checked="" type="checkbox"/>	マップ	World Heat Map
<input checked="" type="checkbox"/>	データソース	Ski Team
<input checked="" type="checkbox"/>	データベースビュー	Ski Team
<input checked="" type="checkbox"/>	コンテンツカテゴリー	Tutorial
<input checked="" type="checkbox"/>	サブカテゴリー	Athletes
<input checked="" type="checkbox"/>	サブカテゴリー	Marketing & Booking
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Agency Benchmark
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Athlete Demographic Breakdown
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Athlete Demographic Spread
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Athlete Spending
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Cancelled Bookings
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Customer Age & Location Breakdown
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Media Category Profit
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Sales Forecast
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Ski Team Performance Metrics
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Top N Agencies
<input checked="" type="checkbox"/>	レポート	Twitter Stats
<input checked="" type="checkbox"/>	イメージ	twitter_blank.png
<input checked="" type="checkbox"/>	イメージ	Male Athlete

例えば…

ダッシュボード"Analysis"にはレポートやイメージ、レポートが参照しているビューやデータソース、レポートとダッシュボードが保存されているコンテンツカテゴリーが従属関係の対象となります。

追加

メリット

- ・ビューだけをエクスポートする、特定のコンテンツだけをエクスポートするなど、その時々でバックアップの対象を選択することができます。
- ・画面上からエクスポート、インポートができるので、システムを停止する必要がありません。
- ・インポートの際、既存を上書きするか新規でインポートするかを選択できるので、オリジナルを残しながら復元することができます。

デメリット

- ・スケジュール化することはできません。
- ・ユーザー情報やロール、ユーザー（グループ）に紐づくセキュリティ設定はエクスポートの対象外となります。
- ・システム設定やコンテンツ設定などのシステム全体の設定はエクスポートの対象外となります。
- ・CSVファイルから作成したレポートはエクスポートの対象外となります。
- ・エクスポート先とインポート先のYellowfinが同バージョン/ビルドである必要があります。
- ・レポートやビューで参照しているデータベースの構造が変わっている場合など、環境の差異からインポート時にワーニングが表示されます。

データベースビュー: スキーチーム



テーブル "CAMPAIGN" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "TRAVELAGENCY" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "PUBLIC"."BONEBREAKS" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "ATHLETEFACT" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "COUNTRYGEOMETRY" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "INTERNATIONALBANKRATE" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "DATELOOKUP" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "CAMP" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "ADDRESS" がソースデータベースに存在しません。
テーブル "PERSON" がソースデータベースに存在しません。

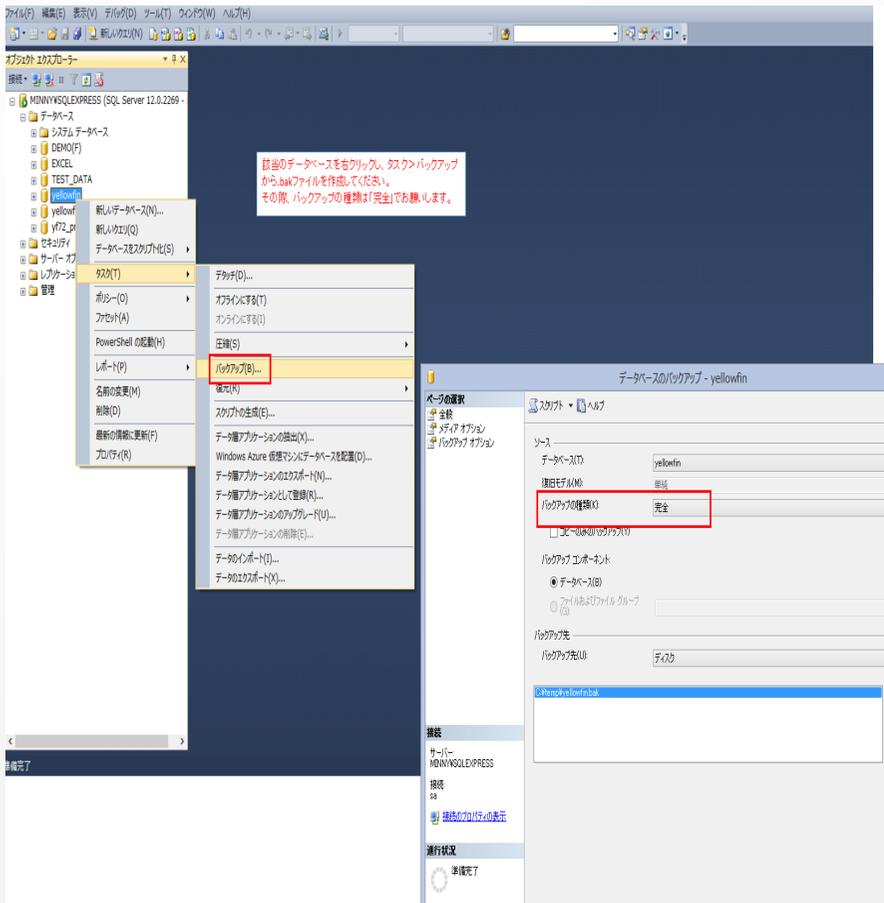
インポート時の警告の一例です。
データソースとして指定したデータベース内に、
ビューで使用しているテーブルが存在していないというメッセージになります。

警告メッセージが表示された場合でもインポート処理の続行は可能ですが、内容によってはインポートしたコンテンツが破損する恐れがあります。

警告メッセージが表示された時は無理に処理を続行せず、メッセージ内容をしっかり確認して一度インポート処理をキャンセルすることを推奨しています。
その後、警告メッセージに内容に応じて環境の確認を行い、問題が解消されたら再度インポート処理を行うようにしてください。



リポジトリデータベースの 完全バックアップ



リポジトリデータベースとして指定しているデータベース全体のバックアップを取得する方法です。

Yellowfinの画面上から取得することはできません。

バックアップ方法は使用するデータベースによって異なりますので、事前にご確認ください。

左の図はSQL Serverでのバックアップの取得方法です。

メリット

- ・ 作成したコンテンツだけでなく、ユーザー情報やセキュリティ情報、システム設定も含めて完全にバックアップできます。
- ・ 万が一データに破損が見つかった場合、バックアップ取得時点であれば完全に復旧することが可能です。
- ・ バックアップを使用することで、設定情報を含め完全に同じ環境を別途構築することができます（検証環境、サーバー移行時など）。
- ・ 場合によってはスケジュール化ができます。

デメリット

- ・ Yellowfinを停止させる必要があります。
- ・ Yellowfin外の操作となるため、バックアップ取得失敗による弊害に関して弊社ではサポートできかねる場合があります。



どのように使い分ける？

通常運用時には

- ・リポジトリデータベースの完全バックアップは定期的に取りるようにしてください。
- ・リポジトリデータベースはビルドアップ、バージョンアップの度に変更が入る場合があります。取得したバックアップがどのバージョン/ビルドの時点のものなのか明確にしておいてください。
- ・ビルドアップ、バージョンアップ時には必ずリポジトリデータベースのバックアップを取得してください。
- ・ビューやレポートを大幅に変更する場合は、事前に対象のコンテンツをエクスポートしておくようにしましょう。

弊社へお問合せの際には

Yellowfinのお問合せの中には、弊社の検証環境では現象を再現できないものもあります。

その際、弊社からはサンプルのSki Teamで同じ現象が再現できるかのご確認をお願いしています。

もしSki Teamでも現象が再現できた場合には、そのレポート（ビュー）をエクスポートして頂ければ、弊社でも同じコンテンツで検証を継続することができます。

また、「特定のレポートだけ編集できない」などといった、リポジトリデータベース内に問題がある可能性のあるお問合せでは、リポジトリデータベースのバックアップファイルのご提供をお願いする場合があります。

特定のデータだけでなく全体をご提供頂くことで、弊社でも同じ環境下でYellowfinを起動することができ、実際に操作しながら検証を行うことが可能となります。

